

ました。祖先が年月をかけて受け継いできたかけがえのない自然環境を取り戻し、子々孫々に受け継いでいく責務を負っていることをまず自覚し、美しく限りある自然と共に生きる社会をつくるために方向を転換したいと考えます。最終的には、できるだけ天から与えられる恵みで生きることができると目標として、佐渡が環境問題の先進地としての位置づけ、確立を目指したいと考えています。

環境基本条例の制定を行い、「環境の島・エコアイランド」を宣言します。



2 「トキの野生放鳥」と「離島特区」に向けた取り組み

トキの放鳥については平成20年に計画されているところではありますが、佐渡にトキが舞い飛ぶ姿が現実味を帯びてきた今、佐渡としてもこの「時のネジ」を巻き戻す壮大な実験を全力をあげて支援する必要があります。



この貴重なトキをシンボルにして、周辺一円の減農薬有機肥料中心の農業経営を押し進め、国の構造改革特区や地域再生計画など国の施策を取り入れ、一次産業について安全安心を求める消費者ニーズの高まりに応じた、佐渡ブランド品の確立と付加価値を高めます。このほかの産業についても各種規制緩和策を図り、さらに、民間や市民と知恵を出し合って新しい佐渡づくりを考え、規制や障害を排除する仕組みを構築して、「トキと共生できる」島づくりを目指します。

3 「空港問題」

この問題は、合併前からの懸案事項です。佐渡という離島であるがためのハンデ（東京からの時間距離は札幌、那覇より遠い）の克服と、佐渡の将来の産業振興、観光はじめ交流人口の増加、災害救助を考えた場合、安価でスピーディーなアクセスの仕組みとして大都市や海外とシエツト

機で直結できる空港は、佐渡にとってすぐさま対応すべき最重要課題の一つです。このことから、地元合意形成を図りながら早期事業化に向け、精力的に取り組みたいと考えています。

4 「ユネスコ世界遺産」指定に向けた取り組み

佐渡金銀山遺跡は、佐渡が世界に誇れる文化遺産です。日本の歴史にとつて、佐渡の金銀山が大きな役割を果たしてきたことは誰もが認めることであり、大航海時代の世界史にも、黄金の島、シンバングとして名を刻む重要遺産です。速やかに世界遺産の指定を受け、後世に引き継ぐことが必要です。そのため、関係各機関と連携を密にしながら指定に向けての体制を整えるよう努力いたします。

5 「観光振興」

佐渡観光客の入り込みは平成3年の121万人をピークに12年連続して減

少しています。

近年の観光客の動向は、かつての団体旅行から個人や小グループ旅行へと構造変化をきたしており、観光客は島民が気づかない多様な観光資源に興味を持って来島しています。その観点からも佐渡にはまだ多くの観光資源が存在しているといえます。新潟県や佐渡観光協会等と連携した佐渡観光アクションプラン、佐渡百選及びときめきの佐渡観光推進事業等について、積極的な宣伝誘客活動を展開すると共に、各種イベントを開催し、佐渡をアピールしていきます。

また、受け入れ態勢についても観光と農林水産業等との連携などで他のすべての産業に影響を与え、産業活性化に貢献が予想されることに鑑み、観光振興を観光業者だけのものにとどめず、市民すべての関心事として訪れる人々へのもてなしの心の醸成に努めます。また、旅館・ホテルと佐渡の食材を弾力的に利用できる地域のグルメレストランの育成と、その住みわけへの問題提起も行います。

